

オアシス21 ハマナス療養棟

症 例 概 要 入所者：90代後半 女性 要介護度2

病名：第12胸椎・第3腰椎圧迫骨折後、骨粗鬆症、高血圧症、気管支喘息、心房細動、アルツハイマー型認知症、慢性リンパ性白血病

入所までの経過：

気管支喘息と高血圧はS市で長女と同居中より治療されてるため発症不明。裏千家のお茶を教えたり、70歳頃まで水泳をされたり弁論大会に出たりと活動的に過ごされていた。ADLは自立されていたが意欲低下や服薬忘れが見られ認知症診断受け、2回/週デイサービスと1回/月のSSを特別養護老人ホームで利用して生活中、令和5年2月下旬に誘因なく圧迫骨折発症。3月上旬に花川病院入院。5月下旬に施設選定目的でオアシス入所後に、慢性リンパ性白血病の診断を受けるが低リスクの為、経過観察となる。

内 容

～共生、そして共鳴～

「どうして私は健康なのに、ここに居なきゃならないの？」

当初は、帰宅要求の訴えが強く、「自分は邪魔者」と言い、「私なんか生きててもしょうがない。早く迎えに来て欲しい。」が口癖になっていました。同室者からも「そんなこと言っても迎えに来なきゃ仕方がないんだから」と、疎ましくされるようになっていました。

看護業務の処置で、体調の確認はもちろんですが、気持ちに寄り添い何気ない会話をしていたときに、「春だね、花見だね」そんな会話の中で、お茶の先生をしていたことに触れました。そこだけの話が終わらず、「得意を活かした、生きがいを感じて欲しいね」と課題になり、お茶会を企画しました。

お茶の経験がある事務職員が相談・協力に出てくれ、栄養科の協力もあり、同室者だけのお茶会が、ご利用者全員の大きな企画になりました。

ご本人のお茶の振舞いを肅々と観覧する同室のご利用者、ご利用者全員へ初めての抹茶を立てた職員の歓喜、私も立てたいと意欲がでるご利用者、「苦くて抹茶は嫌い」と参加をしぶられたご利用者を引き出し「美味しい」と満面の笑顔に、誤嚥リスクのあるご利用者へはトミの配慮、寝たきりのご利用者も喜ばれ、3名でしたが他フロアのご利用者も招待して交流が出来たこと、みんなが喜んでくれたこと

をご本人へ伝えると、「あんなのでよかったら、いつでも手伝いますよ」と、はにかみながらも、次回の企画に協力の約束をしてくださいました。

また、スタッフからは、5年前に「これからは共生していかなきゃならない」と言っていたご利用者を思い出したという声も上がっていました。今回はまさに共生のなかから1人1人の笑顔の共鳴を引き出すことが出来た事例です。